

正誤表

『肺癌診療ガイドライン—悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む—2024年版』第1刷（2024年10月18日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2024年12月2日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正	備考
81	樹形図 (最上段) 非小細胞肺癌: II B 期-N2a, IIIA 期, IIIB 期-N2	<p>〈誤〉</p> <p>II B 期 T1N2a IIIA 期* IIIB 期 T3-4N2 * 肺尖部胸壁浸潤癌を除く</p> <p>手術可能 → ± 術前治療 → 手術 肺葉以上の切除 リンパ節郭清 T3, T4 臓器合併切除 周術期</p> <p>手術不能 → IIIB, IIIC 期の治療に準ずる</p> <p>〈正〉</p> <p>II B 期 T1N2a IIIA 期* IIIB 期 T3-4N2 * 肺尖部胸壁浸潤癌を除く</p> <p>手術可能 → ± 術前治療 → 手術 肺葉以上の切除 リンパ節郭清 T3, T4 臓器合併切除 周術期</p> <p>手術不能 → IIIB, IIIC 期の治療に準ずる</p>	<p>II B 期 T1N2a IIIA 期* IIIB 期 T3-4N2 * 肺尖部胸壁浸潤癌を除く</p> <p>手術可能 → ± 術前治療 → 手術 肺葉以上の切除 リンパ節郭清 T3, T4 臓器合併切除 周術期</p> <p>手術不能 → IIIB, IIIC 期の治療に準ずる</p>	誤植
233	7-9 行目	Grade 3 以上の治療関連有害事象発現率は、5.4 mg/kg 群で 38.6%，6.4 mg/kg 群で 58.0%であり、間質性肺炎の頻度はそれぞれ 5.9%，8.0%であった ²⁾ 。	Grade 3 以上の治療関連有害事象発現率は、5.4 mg/kg 群で 38.6%，6.4 mg/kg 群で 58.0%であった。また、投与中止に至った間質性肺炎の頻度はそれぞれ 5.9%，8.0%であった ²⁾ 。	誤植
305	下から 8 行目	OS 中央値は CP 療法 13.2 カ月 vs CE 療法 12.0 カ月、PFS 中央値は CP 療法 4.9 カ月 vs CE 療法 4.4 カ月で、	OS 中央値は CI 療法 13.2 カ月 vs CE 療法 12.0 カ月、PFS 中央値は CI 療法 4.9 カ月 vs CE 療法 4.4 カ月で、	誤植

以上

正誤表

『肺癌診療ガイドライン－悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む－2024年版』第1刷（2024年10月18日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2024年10月25日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正	備考
49	10行目	<u>CQ10</u> を参照	CQ13 を参照	誤植
80	樹形図 3番目 タイトル	非小細胞肺癌： <u>IIB, IIIA</u> 期	非小細胞肺癌： 肺尖部胸壁浸潤癌（IIB, IIIA期）	誤植
205	樹形図 EGFR 遺伝子 変異陽性			誤植
377	13-14 行目	以上より，悪液質を呈する切除不能・進行非小細胞肺癌患者に選択的グレリン受容体刺激薬を投与することを <u>強く推奨する</u> 。	以上より，悪液質を呈する切除不能・進行非小細胞肺癌患者に選択的グレリン受容体刺激薬を投与することを 推奨する 。	誤植

以上